**校長　　照屋　篤**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **「開発創造、和衷敬愛、質実剛健」の建学の精神のもとに「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。**  **育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、勇気を持って新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。**  **重点課題：自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　生徒の学力を高め、進路を保障  (１)学習における自律精神の育成  ア　規範意識を高め、挑戦する心の育成  　※授業遅刻の減少（H31:2800、2020:2700、2021:2600）（H30:2894）、生徒指導の徹底（化粧、標準服のスカート丈の重点指導）、  教育相談等サポートの充実（SSWの配置、ケース会議の適宜開催）  イ　学習意欲の向上と継続した学習の推進  ※「総合的な探求の時間」の充実（思考力、表現力の向上）  ※進路指導の充実（進路マニュアルの改訂とそれに沿った統一的な指導、成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談の実施）  ※授業アンケート「１生徒取組」（授業内容について必要な予習や復習ができている）の学校平均をH31:2.80、2020:2.81、2021:2.82にする  （H30：2.79）  同じく「５教材活用」（先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている）の学校平均をH31:3.10、2020:3.11、2021:3.12にする  （H30：3.09）  (２)国際交流の推進  ア　多様性を理解し、コミュニケーションの機会を増加させる  ※自己表現力の向上のため、文化祭、体育祭、学校説明会等での発表機会を増やす  　※修学旅行、福祉体験、ぷち留学（地域の国際関連施設との交流）等体験学習の充実  イ　国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める  ※在校生の国際交流：韓国、台湾、ニュージーランドの姉妹校への語学研修派遣、及び、姉妹校の受け入れによる相互交流  ※ニュージーランドと台湾の姉妹校との交換留学を継続する  ※台湾姉妹校との本校の60周年行事を通じた交流を進める  ※卒業生の国際交流：台湾、ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣  ※英語アシスタントの受入れ：ニュージーランドから卒業生を英語のアシスタントとして受け入れる  ※英検受験者をH31:195人、2020:200人、2021:205人にする（H30：192人）  ※第2外国語としての中国語、韓国・朝鮮語の資格試験受験者の増加  ※地域の国際関連施設と語学を通じた連携を進める  ※学校教育自己診断（生徒）「国際交流を行う機会が多い」をH31:98%、2020:98%、2021:98%にする（H30：97%）  (３) 進路保障の充実  ア　希望進路の実現をめざした学力の育成  　※コースを基本原則としたクラス編成の実施  ※進路実現に向けた計画的な講習や学力生活実態調査結果の分析会の実施  ※アジア太平洋コース選択者の増加  イ　国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数をH31:50人、2020:53人、2021:55人にする（H30：46人）  ※教員同士の授業力向上研修の継続実施  ※学校教育自己診断（生徒）｢学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく｣をH31:68%、2020:69%、2021:70% にする（H30：67%）  同じく「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている｣をH31:73%、2020:74%、2021:75% にする  （H30：72%）  ※スタディマラソン（夏期）での卒業生の協力（学習支援、講話等）の充実  ２　自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を高め、充実した学校生活  (１)生徒会活動、部活動の活性化  ア　生徒会執行部の育成  　※管理職との情報交換会を年3回実施し、生徒会から聞いた要望の実現をめざす  ※学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動は活発である」をH31:81%、2020:82%、2020:83%にする（H30：80%）  イ　部活動の更なる充実  ※学校教育自己診断（生徒）「部活動は活発である」をH31:85%、2020:86%、2020:87%にする（H30：84%）  (２)体験活動の重視  ア　生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情※自律心※共生の精神を育む  ※中学校等や近隣施設との交流推進  学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」をH31:38%、2020:39%、2021:40%にする（H30：37%）  ※学校行事の充実  　学校教育自己診断（生徒）「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」をH31:78%、2020:79%、2021:80%にする（H30：77%）  学校教育自己診断（生徒）「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」をH31:75%、2020:76%、2021:77%にする（H30：74%）  ３　教員の指導力を高め、良き教育環境作り   1. 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成   ア　授業力の向上（観点別シラバスに沿った、わかりやすい授業をめざす）  ※校内授業見学会・校外授業研修の参加者増加、小中高への視察者増加  ※学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす（学力生活実態調査事業者も入った分析会を学年対象と教科対象の２部構成で実施）  ※学校教育自己診断（生徒）「教え方に工夫があり、わかりやすい授業が多い」をH31:47%、2020:48%、2020:49%にする（H30：46%）  ※授業アンケート「８・９授業に関する生徒の意識」（８授業内容に、興味※関心を持つことができたと感じている、９授業を受けて、知識や  技能が身に付いたと感じている。）の学校平均をH31:2.98、2020:2.99、2021:3.00にする（H30：2.97）  イ　ICTを利用した授業、グループ学習、発表（伝える）能力育成をめざす授業の推進  　※ICTを利用した授業の増加  ※学校教育自己診断（生徒）「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」をH31:75%、2020:76%、2021:77%にする（H30：74%）  ※授業アンケート「６授業展開」（先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい）をH31:3.12、2020:3.13、2021:3.14にする（H30：3.11）  (２)教職員が相互理解を深め信頼関係を高める  ア　情報共有の場としての拡大学年会議の実施  イ　人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実（いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催）  ウ　総括職員会議の充実（総括・目標達成の検証・計画の改善を行う）  エ　学習環境を整えるための統一した生活指導の推進  ※学校教育自己診断（教職員）｢教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている｣を  H31:40%、2020:50%、2021:60%にする（H30:38%）  オ　安全衛生委員会の充実（「働き方改革」への取組み強化）  　（３）校舎等修繕の計画的な実施  　　　　 ※学校教育自己診断（生徒）「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいていており気持ちよく生活できる」を  H31:40%、2020:45%、2020:50%にする（H30：36%）  ４　保護者・地域との関係強化  (１)保護者・地域との連携を深める  ア　国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける  イ　防災訓練等地域連携行事への参加と協力を進める  ウ　地域の小・中・高・支援学校及び大学との交流を進める  エ　自転車マナー指導・避難所訓練や文化祭バザー・クリーンキャンペーンを地域やＰＴＡと連携して進める  (２)学校情報の更なる発信  ア　学校ホームページを使った情報発信を強化する  イ　メールマガジンの発行を継続する  ウ　学校説明会で生徒が活躍する場面の充実  ※学校で実施する学校説明会の参加者を増加する（H31:1440人 、2020:1450人 、2021:1460人）（H30：1430人） |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成31年12月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　生徒の学力を高め、進路を保障 | （１）学習における自律精神の育成  ア　規範意識を高め、挑戦する心の育成  イ　学習意欲の向上と継続した学習の推進  （２）生徒参加型の国際交流  イ　国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす  （３）進路保障の充実  ア　希望進路の実現をめざした学力の育成  イ　国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数の増加 | （１）  ア・教育相談等サポートの充実（SSWの配置、ケース会議の適宜開催）  イ・将来構想委員会による「受けることが楽しみな授業」を増やす取組みを継続する  ・新カリキュラム編成委員会で選択科目設定の検討を行う  ・進路マニュアルの改訂とそれに沿った統一的な指導を実施する  ・成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談を実施する  （２）  イ・交流受け入れ時における本校生徒と外国生徒の交流時間の増加を図る  ・国際交流の事前説明会と事後報告会の事前周知を充実させる  　・新入生及び在校生の保護者へ外国生徒のホームステイ家庭としての協力をアピールする  (３)  ア・１年次・２年次のコース選択オリエンテーションで全担任が同じ内容を同じトーンで伝えられるよう事前の学習会を充実する  イ・進路指導部主導で３年間を見通した講習計画を作成するとともに、共通の教材を使用する | （１）  ア・学校教育自己診断（教職員）「様々な問題行動防止のための早期対応・指導に学校全体で心がける体制になっている」を58%以上にする（H30:57%）  イ・授業アンケート「１生徒取組」（授業内容について、必要な予習や復習ができている）の学校平均を2.80以上にする（H30：2.79）  ・授業アンケート「５教材活用｣（先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている）の学校平均を3.10以上にする（H30：3.09）  （２）  イ・学校教育自己診断（生徒）「国際交流を行う機会が多い」を98%以上にする  （H30:97%）  ・３カ国への語学研修希望者をH30より増やす（H30：39人）  ・ホームステイ引受家庭数をH30より増やす（H30：29家庭）  （３）  ア・学校教育自己診断（生徒）「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」を73%以上にする（H30:72%）  イ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を68%以上にする（H30：67%） |  |
| ２　生徒の活力を高め充実した学校生活 | (１)生徒会活動、部活動の活性化  ア　生徒会執行部の育成  イ　部活動のさらなる充実  (２)体験活動の重視  ア　学校や施設との交流の推進  イ　学校行事の充実 | (１)  ア・文化祭でのクラスやクラブの企画において  「成果発表」の要素がより濃くなるための方策を生徒会執行部が作り上げるよう支援する  イ・中学生が参加できるクラブ体験機会を増やし、入学後の入部につなげる  (２)  ア・部活動や生徒会執行部での他校生との交流機会を増やすとともに、幼稚園・保育園や国際関連施設との交流を引き続き進める  イ・生徒の思いや考えを生徒会執行部を中心に察知して、みんなで作り上げる文化祭・体育祭となるよう指導及び支援に力を入れる | （１）  ア・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動が活発」を81%以上にする（H30:80%）  イ・学校教育自己診断（生徒）｢部活動が活発｣を85%以上にする（H30:84%）  （２）  ア・学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」38%以上にする（H30:37%）  イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」を78%以上にする（H30:77%）  ・学校教育自己診断（生徒）「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」75%以上にする（H30:74%） |  |
| ３　教員の指導力を高め良き教育環境作り | （１）教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成  ア　授業力の向上  イ　ICTを利用した授業  （２）教職員が相互理解を深め信頼関係を構築  ア　情報共有の場としての拡大学年会議の実施  イ　人権教育推進委員会の充実（いじめの未然防止と早期発見に一層取組む）  ウ　総括職員会議の充実  オ　安全衛生委員会の充実（「働き方改革」への取組み強化）  （３）校舎等修繕の計画的な実施 | （１）  ア・校内授業見学会とその後の研究協議、校外授業研修、小中高への視察、これらの参加を勧める  ・学力生活実態調査の分析会を担任対象と教科対象の２部構成にする  ・授業アンケート結果を元にした教科での分析会の定期実施  イ・ICTを使った授業の発表会の1学期での実施  （２）  ア・拡大学年会議を定期開催する  　・担任会での生徒の思いや考えの共有に努める  イ・3年間を見据えた人権教育計画の策定し、学期に1回は人権学習HRを実施する。そのうちの1回はSNSを使ったいじめを未然防止するためのHRとする  ウ・年間総括、目標達成の検証、計画の改善を行う  オ・「働き方改革」の具体的な取組みを実施  （３）教職員等による点検を定期的に実施し必要な修繕を行う | （１）  ア・学校教育自己診断（生徒）「わかりやすい授業が多い」を47%以上にする（H30：46%）  　・校内授業見学会の見学件数をH30より増やす（H30：15件）  　・校外での授業研修の参加者をH30より増やす（H30：９人）  　・小学校及び中学校への視察人数をH30より増やす（H30：９人）  　・授業アンケート「８・９授業に関する生徒の意識」（８授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、９授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。）の学校平均を2.98以上にする（H30：2.97）  イ・学校教育自己診断（生徒）「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を75%以上にする（H30：74%）  （２）  ア・学校教育自己診断（教職員）｢教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている｣を39%以上にする（H30：38%）  イ・SNSを使ったいじめを未然防止するためのLHRを各学年で年１回実施し、人権だよりで保護者に知らせる  ウ・学校教育自己診断（教職員）｢教科として、積極的に教科目標・指導内容・進度等について点検・検討する機会を持ち、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている｣を61%以上にする  （H30：60%）  オ・分掌で行っている定例業務の見直し又は効率化を行う  （３）学校教育自己診断（生徒）「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいていており気持ちよく生活できる」を37%以上にする  （H30：36%） |  |
| ４　保護者・地域力との関係強化 | ４  （１）保護者・地域との連携を深める  ア　国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける  イ　地域連携行事への参加と協力を進める  ウ　地域の小学校・中学校、及び、近隣の大学との交流を進める  エ　自転車マナー指導・避難所訓練や文化祭バザー・クリーンキャンペーンを地域やＰＴＡと連携して進める  (２)学校情報の更なる発信  ア　学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを使った情報発信を強化する  ウ　学校説明会で生徒が活躍する場面の充実 | (１)  ア・英語講座、韓国語講座を継続する  イ・近隣の国際関連施設との交流（阪南プチ留学）を年２回実施する  ウ・地元の小中支援学校にニュージーランドの姉妹校から来たネイティブを派遣する  エ・早朝自転車マナー指導を４月、８月の学期初めと５回の考査期間中に行う  （２）  ア・校長ブログの継続  　・ホームページとメルマガ阪南を使った災害時等での情報発信の強化  ウ・学校説明会で生徒による案内、演奏（校歌紹介等）、司会、説明を実施する | (１)  ア・学校教育自己診断（保護者）「ＰＴＡ活動は活発である」を68%以上にする（H30：67%）  イ・阪南プチ留学の参加者をH30より  増やす（H30：17人）  ウ・派遣日数をH30より増やす  （H30：28日）  エ・近隣から苦情をいただかないようにする  （２）  ア・校長ブログの月４回以上の更新  ウ・学校説明会への参加者をH30より  増やす（H30：1430 人） |  |